

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岸町小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

次年度に向けて
(3月)

年度末評価
(2月)

反映

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>【学習上の課題】算数・理科において定着の度合いに差が見られる。国語の「書くこと」に関する問題の正答率がやや低い。</p> <p>【指導上の課題】SSDBを活用した、個別最適な学びについての理解が深まっていない児童が自分の思いや考えを、書いて表す機会が減ってきている。</p>	<p>⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。【毎日実施】SSDBを活用し、児童一人ひとりの学習状況や課題について把握し、指導に生かす。【毎日実施】</p>
思考・判断・表現	<p>【学習上の課題】算数の「変化と割合」に関する問題に対する正答率が低い。問題の場面や題意を捉えていない児童が多い。</p> <p>【指導上の課題】課題発見能力を育成する授業が不十分である。</p>	<p>⇒ 問題・課題に対して、自分がどのように学習に取り組んだのか振り返りを書いて確かめることができるようにする。【R6さいたま市学習状況調査】これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。】の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】</p>

全国学力・学習状況調査
<小6・中3> (4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語の情報の扱い方に関する問題に課題が見られた。解答類型を見ると、中心となる言葉と関係する言葉を捉え切れていない児童がいると考えられる。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解するための学習活動を多く取り入れることが大切である。</p> <p>算数の除数が小数である場合の除法の計算についての問題に課題が見られた。解答類型を見ると、計算の方法について、なぜその方法で答えが求められるのか、理解できていない児童がいると考えられる。</p>
思考・判断・表現	<p>国語の目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。事実と感想、意見とを区別して書くことなどとして、書き表し方を工夫する学習活動を継続的に取り入れることが大切である。</p> <p>算数の球の直径の長さや立方体の一面の長さの関係や、立方体の体積を求めることに課題が見られた。解答類型を見ると、体積を求める問題に対して、面積の公式を用いて答えを求める児童が一定数いた。知識というよりも、題意を捉え切れていないことが原因であると考えられる。</p>

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>授業のまとめなどで、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図ることができた。</p> <p>SSDBについては、取組に学級によって差が見られるため、管理体制を確立し、全ての学級で着実に実施できるようにする。</p>	SSDBのチェック体制を確立させる。【通年】
思考・判断・表現	B	<p>振り返りの時間は、教科等によらず実施することが定着しつつある。また、タブレット等のICT機器を活用することにより、児童どうしで、振り返りを共有することができ、学力向上に繋がった。</p>	変更なし。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)